



ドクター・ハザマの

バイタルサイン塾

27

プロのもとになる「知識・技術・経験」

ファルメディコ株式会社
大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座
医師・医学博士 狭間 研至

薬剤師の仕事は 技術と経験に頼り過ぎていないか

プロの要件の1つを「素人が見えないものが見える」とすれば、見えるようになるために必要なものは何でしょうか。言うなれば、「プロのもとになるもの」です。いろいろな専門職で、そのもとになるものは異なると思いますが、大きく分けると、知識と技術と経験によると思います。これら3つがバランスよく保たれているのが、プロとして好ましい姿ではないでしょうか。

薬剤師はまごうことなき「薬のプロ」だと思いますが、古くは院内調剤のクリニックでのお薬の準備や、最近では登録販売者の問題など、薬剤師でなくても可能な仕事なのか、薬剤師は本当にプロとして求められるのか、ということを感じざるを得ない状況があるのではないのでしょうか。

冒頭の定義に照らし合わせれば、薬剤師がプロとして認知され、活動するための知識・技術・経験が、十分に整いきっていないということが、その要因の1つになっているのかも知れません。

誤解を恐れずに言うならば、いまの薬剤師の仕事は、技術と経験で何とかやっつけている状態のように、一般の方や他の医療従事者には見えているのかも知れません。

医師が処方したお薬を正確に、わかりやすい説明とともにお渡しするためには、処方監査、調剤手技、服薬指導がスムーズに行えなくてはなりません。そのため、当面やるべきことがいっぱいあります。新卒薬剤師にとっては、まずはお薬の名前を覚えるところから始めるということが最重点課題のようにも思えます。これらを学び習得していくためにはOJTは効果的です。もちろん、OJTの中で1つずつ学んでいく知識

もあると思いますが、ここでは、やはり主には技術と経験が養われていくように感じられます。

「プロの価値」と「知識」のつなげ方にも 医師と薬剤師の違いあり

私は、医師としての研修しか受けていませんが、この最初の状態は非常によく似ていると感じます。

医師免許を得て医療現場に立つようになって、まず大事なものは、本連載のテーマでもある血圧や脈拍の測定といったバイタルサインの手技はもちろんのこと、採血や点滴から始まるさまざまな医療処置の技術を身につけることです。

これらの技術は、経験を積むことによってうまくなりますが、対応できる患者さんの数は限られていますから、その経験値を稼ぐために、研修医同士が、お互いに採血や点滴の練習をし合うことになります。しかし双方に初心者ですから、なかなかうまくいきません。研修医が両腕に内出血の痕をいくつも付けて病棟をウロウロする様子は、年度初めの風物詩(?)のようなものです。

しかし、半年もすれば、採血や点滴はもちろん、レントゲンのオーダーや緊急CTのねじ込み方など、病棟で役に立つようになってきます。ここまでで大切なものは、技術と経験です。

しかし、採血や点滴、レントゲンのオーダーをするのが医師の仕事のすべてではありませんので、徐々に患者さんへの「診療」にシフトしていくことになりませんが、その際に必要なのが「知識」になります。

医師と薬剤師の違いは、この「知識」をプロとしての価値にどのようにつなげているかにもあるのではないかと思います。